

## 方針2 地域における支え合いの基盤づくり

### 現状と課題

令和4年度に実施された高齢者福祉に関するアンケート調査によると、趣味の活動や町内会・自治会活動、仕事など何らかの社会活動に週に1回以上参加している方の割合は、45.0%でした。また、何らかの社会活動に週1回以上参加している方はそれ以外の方より健康状態を「とてもよい・まあよい」と回答した方の割合が7.5%高く、現在の幸福度(10点満点)に8点以上の点数を付けた方の割合が6.8%高いという結果でした。

高齢期になっても、自らの興味関心やこれまで培ってきた経験をもとに主体的に社会と関わったり、外出や人との交流機会を持ったりすることを「社会参加」と言います。社会参加は、心身の健康維持や介護予防、生きがいのある充実した生活のために重要です。

また、社会参加をすることで生まれる人と人とのつながりは、地域づくりにもつながります。例えば、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるために、日常生活の困りごとや悩みを持って暮らしている人を支え、見守る活動として、住民主体の団体による日常生活のちょっとした困りごとへの支援が行われています。活動者の多くは70代から80代で、ゴミ出しや除草、買い物支援などを時に支える側として、時に支えられる側として、地域で暮らす人々同士で支え合っています。

しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、個人の社会参加の機会は減少しました。地域でも、活動縮小や解散・休止を余儀なくされる団体や活動が増えてきています。その上、地域で生じる課題の多様化・複雑化により、地域活動の担い手の負担が増加傾向にあることや、近年の定年引き上げなどによる活動者の減少も課題です。

地域にますます高齢者が増加することが予想されている今、地域と行政が一緒に考え、高齢者が生き生きと暮らし続けられるような取り組みと、地域の中で困りごとを解決できる支え合いの仕組みづくりを模索していくことが重要です。

### 方針目標

- ◆ 高齢者が社会参加するきっかけづくりや情報提供を進めます。
- ◆ 生活支援コーディネーターと連携し、地域で暮らす方々の「やりたい・やってみたい」が実現できるよう、寄り添い一緒に考え、ともに地域づくりを進めます。
- ◆ 地域の見守りネットワークの在り方や見守る人の負担軽減について関係機関と連携し検討します。

## 成果指標

項目	現状 (令和4年度)	中間目標 (令和7年度)	成果目標 (令和10年度)
「困ったときに助け合えるまちである」という問いに「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合※1	32.9%	35.0%	40.0%
趣味の活動や町内会・自治会活動、仕事など何らかの社会活動に週に1回以上参加している方の割合	45.0%	47.0%	49.0%
友人・知人に1か月会っていないと回答した人の割合	17.6%	15.5%	10.7%
家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手がいない人の割合※2	45.7%	42.0%	40.0%

※1 横須賀市地域福祉計画に関するアンケート調査による

※2 横須賀市高齢者福祉に関するアンケート調査(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を含む)による

## 2 生きがいづくり・社会参加支援

- ◇ 生き生きと主体的な生活が送れるよう、社会参加を促進します
- ◇ 社会参加を通じて地域の力を高めるため、介護予防に資する地域活動を支援します
- ◇ 地域活動を活発化して地域全体を支援するため、地域の健康度を高めるための取り組みを行います

### (1) 社会参加の促進

#### ① シルバー人材センターへの支援

横須賀市シルバー人材センターは生涯現役社会の実現に向けて、高齢者に働く機会を提供し、高齢者の生きがいの充実や生活の安定、地域社会の発展や現役世代の下支えなどを推進する機関です。少子高齢化の進展により今後もますます高齢化率が上昇していく見込みの中、経済社会の活力を維持するために、働く意欲のある高齢者がその特性と強みを活かして経済社会の担い手として活躍し続けることが必要です。

登録会員数の増加と多様な就業機会の確保を目指すため、横須賀市シルバー人材センターの広報活動を支援していきます。

取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
シルバー人材センターの登録会員数		調整中	
シルバー人材センターの受注金額			

② 老人クラブ等への助成

老人クラブは、会員の教養向上、健康増進や地域社会との交流を通じて、地域に住んでいる高齢者が、孤立せず生きがいを持って生活できることを目指し自主的に結成・運営されている団体です。近年、会員の高齢化等により解散する団体も多く、クラブ数・会員数ともに減少しています。

各クラブの活動が活性化していくことは、新規会員の確保につながります。会長研修会の実施や、横須賀市老人クラブ連合会と健康づくりなどのイベントを共催していくことで、各クラブの活動を支援していきます。

取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
会長研修会の実施	1回	1回	1回
イベントの共催	2回	2回	2回
補助クラブ数	200 団体	200 団体	200 団体

取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
老人クラブの会員数	11,000 人	11,000 人	11,000 人

③ 高齢者生きがいの家への助成

高齢者生きがいの家は、町内会等を単位とした10名以上の高齢者グループで、手芸や陶芸など趣味を生かした活動を行っています。イベント等で作品を披露する場を提供するなど団体の活動を支援していきます。

取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
補助団体数	10 団体	10 団体	10 団体

取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
生きがいの家の会員数	130 人	130 人	130 人

## ④ はつらつシニアパスの発行

70歳以上の高齢者を対象に、市内のバス路線が定額で乗り放題となる「はつらつシニアパス」を、京浜急行バス(株)と協力して年2回発行します。

「はつらつシニアパス」に対する高齢者のニーズの把握に努め、高齢者の外出による社会参加を支援していきます。

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
はつらつシニアパス発行枚数	10,000枚	10,000枚	10,000枚

## ⑤ ひとり暮らし高齢者入浴料等助成事業の実施

65歳以上のひとり暮らし高齢者に対して、市内の公衆浴場等の利用券を交付します。公衆浴場等に出かけることにより、地域の交流や本人の社会参加の促進、孤独感の解消につながるよう支援していきます。

## 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
入浴等利用券の発行枚数	189,716枚	190,916枚	192,115枚

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
入浴等利用券の利用率	49.0%	49.5%	50.0%

## ⑥ 敬老祝い事業の実施

長年にわたり、社会の発展に貢献してきた高齢者のうち、88歳と100歳の方に対して、感謝の意を表し長寿を祝うために、敬老祝品を贈呈します。

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
88歳への贈呈件数	2,873件	2,981件	3,090件
100歳への贈呈件数	150件	157件	164件

## (2) 介護予防に資する地域活動の支援

## ① 住民主体の生活支援活動への支援

地域活動の一つとして、住民主体の団体による日常生活のちょっとした困りごと(ごみ出し、除草、買い物等)への支援が行われています。活動者の多くは70代から80代となっており、こうした活動はこれまでの経験を生かした生きがいづくりの場

であり、人と人とのつながりを生み出しています。支援を依頼する人にとっても住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるために必要な支援となっており、地域とつながる機会としても機能しています。近年は、生活支援に加えて、通いの場<sup>※</sup>や認知症カフェといった新しい活動に挑戦する団体も増えてきています。

一方で、活動者の高齢化といった人材面、固定費がかさみ資金繰りに苦慮しているなどの金銭面での理由から継続的な活動が難しくなっている団体も見られ、休止や解散となる団体も増えてきています。

介護予防や生活支援による地域の支え合いの広がりを支援するため、今後も活動の普及啓発や団体向け学習会の実施、団体運営への相談支援を行うとともに、継続的な補助金支援や新しい挑戦を応援する補助金支援についても検討していきます。なお、本事業は後述する「生活支援体制整備事業の推進」と連携し一体的に進めます。

※ 通いの場とは、次の3つの条件に当てはまる、市民の集いの場のことを指します。

- ①介護予防に資すると市町村が判断しているもの
- ②市町村が財政的支援を行っているものに限らないこと
- ③おおむね月に1回以上の活動実績があること

#### 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
住民主体による活動補助団体数	15 団体	15 団体	15 団体

## ② 地域で活動する団体への支援

介護予防の推進にあたっては、高齢者本人の経験や知識、興味関心に応じた社会参加や多世代との交流を通じた人と人とのつながりが大変重要です。

本市においては、ボランティア活動やサロン活動、老人クラブ、コミュニティカフェ・認知症カフェなど地域住民が主体となり様々な活動が行われており、フレイルの予防・改善や高齢者の生きがいつくりといった介護予防に必要な諸部分につながっています。

一般高齢者アンケートでは、約8割の方が「趣味あり」と回答しています。また、約6割の方が健康づくり活動や趣味等のサークル活動などに「参加してみたい」と回答しています。一方で、すでに参加していると回答している方は1割以下となっており、想いと実態の間に乖離が生まれています。

介護予防につながる活動への参加と活動の広がりを支援するため、地域の支え合い活動の支援を行う生活支援コーディネーターと連携し、団体交流会の実施や参加希望者への相談・情報提供に取り組みます。また、継続的な活動を支援するための補助金支援についても検討していきます。

なお、認知症カフェへの支援については、方針3「認知症との共生」5「認知症当事者と家族への支援」(3)「認知症地域支援体制の強化」と一体的に検討します。

## 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
団体交流会の実施	2回	2回	2回

## (3) 地域の健康度を高めるための取り組み

## ① 地域の人材育成や活動支援

介護予防の取り組みを個人一人ひとりで実施するだけでなく、住み慣れた地域で身近な仲間と一緒に楽しみながら健康づくりや介護予防活動を行うことは、生きがいにもつながります。今後も地域の通いの場にて介護予防活動を実施する介護予防サポーターや、同じ市民目線でフレイル状態であることの気づきを促す取り組みを行うフレイルサポーターを養成し、地域の人材育成の取り組みを推進していきます。

また、地域で食育の大切さを普及啓発しているヘルスマイト等とも連携し、地域で行われる健康づくり・介護予防活動を支援します。

## 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
介護予防サポーター養成講座の実施	4コース	4コース	4コース
フレイルサポーター養成講座の実施	1コース	1コース	1コース

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
介護予防サポーター養成講座 受講者数(累計)	1,542人	1,632人	1,722人
フレイルサポーター養成講座 受講者数(累計)	78人	98人	118人

## ② 地域に向けての普及啓発

地域単位で介護予防への関心が高まり、介護予防活動が実践できるよう地域包括支援センターに「地域型介護予防教室」等を委託します。また、地域のグループから健康保持増進や介護予防などの教室の実施依頼があった時は、横須賀市歌に合わせて行う「しらなみ体操」や、ポッチャなどを活用した市職員による「ふれあい地域健康教室」を実施し、地域の健康度が高まる取り組みを実施し、地域活動の活性化を目指します。

## 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
地域型介護予防教室の実施 (地域包括支援センター)	240回	240回	240回
ふれあい地域健康教室 (直営)	50回	50回	50回

### 3 支え合い活動への支援

- ◇ 地域の中にある「やりたい・やってみたい」という想いを応援し、実現できる仕組みを作るために、生活支援体制整備事業を推進します
- ◇ 増加する一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を見守るために、地域福祉促進のための連携・協力体制を作ります

#### (1) 生活支援体制整備事業の推進

##### ① 地域支え合い協議会の設置

地域支え合い協議会とは、地域で暮らす様々な立場や組織の関係者にまじわってもらえる場として設置しています。地域の困りごとや好事例の情報共有を通して関係者間の顔の見える関係や連携体制づくりを進め、地域でこんなことをやりたい・やってみたいという想いがある方や組織を応援することで、大小問わず様々な活動や選択肢の創出をサポートしていくことを目的としています。

現在、横須賀市全域を単位とする「よこすか地域支え合い協議会(第1層協議体)」と日常生活圏域を基本単位とする「各地域支え合い協議会(第2層協議体)」の2つを設置しています。

##### ② 生活支援コーディネーターの配置

支え合いの地域づくりを進めていく手段として、地域の様々な団体や関係者がまじわる場を作ったり、それぞれを結び付けたりする方法があります。そのためには、地域を知り、一緒に地域のことを考え、活動を応援できる存在が必要です。

本市では、こうした役割を担う生活支援コーディネーターを各地域包括支援センター及び市に配置しています。生活支援コーディネーターは、それぞれの地域に足を運ぶとともに、生活支援コーディネーター間や関係機関との連携を密に行い、人と人、人と組織のマッチングや地域ネットワークの構築を進めます。また、支え合い活動について相談しやすい関係づくりも併せて進めます。

なお、生活支援体制整備事業の推進に当たっては、前述した「介護予防に資する地域活動の支援」と連携し、一体的に進めます。

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
協議体や生活支援コーディネーターが携わった団体の立ち上げやイベントの件数	15件	15件	15件

## (2) 地域福祉促進のための連携・協力

## ① 民生委員児童委員との連携・協力

民生委員児童委員は「住民の身近な相談相手」として、地域で起きている生活上の困りごとに気づき、助言します。また、必要な支援が受けられるよう、専門機関へつないだ後は、相談者の生活を見守ります。

民生委員児童委員がより効果的に活動できるよう、民生委員児童委員活動に対する研修会を実施します。

## 取組見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
民生委員児童委員に対する研修の実施回数	4回	4回	4回

## ② 福祉ボランティアとの連携・協力

福祉分野で活動するボランティアは、誰もが安心して住みなれた地域で暮らしていくことができるよう、話し相手、草刈り、ごみ出し、買い物代行・同行、外出介助等の日常生活支援の活動をしています。

地区ごとのニーズに応じたボランティア活動を推進することができるよう、横須賀市社会福祉協議会は、各地区社会福祉協議会が運営する地区ボランティアセンターと連携するとともに、幅広い世代のボランティア活動への参加促進やボランティアの養成をしています。

## 取組結果見込

項 目	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
横須賀市ボランティアセンターにおけるボランティア登録者数	354人	360人	370人
横須賀市ボランティアセンターにおけるボランティア登録団体数	124団体	127団体	130団体

## ③ 横須賀市社会福祉協議会、各地区社会福祉協議会との連携・協力

横須賀市社会福祉協議会が独自に運営する制度の一つに社会福祉推進委員制度

があります。社会福祉推進委員の最も重要な活動は、民生委員児童委員の活動に協力し、ひとり暮らし高齢者などの安否確認のための訪問や声かけ、見守りを通じ、世帯の異変や福祉ニーズなどの情報をいち早く民生委員児童委員に伝えることで、見守りネットワークの重要な役割を担っています。

市は、「支え手と受け手の垣根を超えて地域で生き生きと生活できるまちづくり」を進めていくため、地域福祉活動の中心的な存在である各地区社会福祉協議会の活動支援として、多様な人材の地域福祉活動への参加を促していきます。